

<p>本日の授業内容を整理してください（5～10行程度）。</p>	<p>本日の授業を受けての感想を書いてください（5～10行程度）。</p>
<p>1 「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は、和白干潟に関する内容であった。クリーン作戦を行い和白干潟の海岸清掃を行う。また、和白干潟が将来の子供たちや今の世代に有効的に活用されるように自然観察会や自然保護活動を行っている。博多湾・和白干潟の清掃活動に参加するのは、もちろん大人もいるが、大学生や高校生なども参加している。</p>	<p>本日の授業を受けての感想としては、和白干潟を守る会の方は、誇りを持って参加していることを感じた。大抵の人は、ゴミをポイ捨てしたり、大人でもタバコの吸い殻をポイ捨てしたりする人がいる中で、進んで清掃活動を行っていることに感動した。また、ポイ捨てなどを行っている人たちに、自分が捨てることで迷惑をかけ、他の人が拾ってくれて、綺麗にしてもらっているという自覚を持って欲しいと感じた。</p>
<p>2 「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。環境保全活動に取り組み35年になる。湿地を保全するラムサール条約登録を目指し、和白干潟の自然を未来に残していくため活動している。ラムサール条約締結国会議で和白干潟が選ばれるように、署名活動をして請願書を出している。2013年には和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により、第5回「プロジェクト未来遺産」に登録され、2018年には日本自然保護協会より日本自然保護大賞を受賞した。</p>	<p>海の保全というものは言葉では聞いたことがありましたが、実際に住んでいる街の近く、通っている大学の近くの海で行われているということで現実的に感じとることができました。ただ守っているだけではなくユネスコやラムサール条約登録を目指していて、日本中に、世界に日本、和白の良さを伝えているのだと感じました。今回の話によって身近に感じとることができたので、なにか行動に移してみたいと思いました。</p>
<p>3 「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催されました。内容としては、和白干潟の内容を踏まえて自己紹介をして、和白干潟の四季の様子を写真で紹介した後クイズをしました。その後活動内容について説明されNHKにおける和白干潟の動画を視聴しました。さらに市長に理解してもらいたい思いを聞き、市長からの回答文を読みました。その他にもすくぢひろこさんの切り絵集の紹介を受けました。</p>	<p>本日の授業を受けての感想としては、和白干潟の活動内容を詳しく伺うことで、清掃活動により参加したくなりました。、和白干潟では、開発で減ってしまった植物があることを知り、どのようにすれば今後減らないようになるのかを考えるきっかけになりました。また要望書などで何か思ったことがあれば発信することいや、小中学校を通じて現地で触れ合うことで、多くの人に伝えることができるのは和白干潟だけではなく他の活動にも活かしていけると感じました。</p>

<p>4 本日の授業内容としては、和白干潟や地球の自然を守るとのことで、九州産業大学の近くにある和白干潟は、自然海岸のある干潟として、「日本の里100選」に選ばれている。和白干潟を守る会は35年続いており、湿地を保全するラムサール条約登録を目指している。自然海岸の残る干潟は国内でも、和白干潟を含む2つしかないと言われている。塩生植物が豊富で、渡り鳥の越冬地や中継地としてもアジアでとても重要な存在である。ラムサール条約のために、署名活動なども行い、行政にも掛け合っているが、話にならないことが多く、この干潟を守ろうと真摯に向き合い様々な対策を行っている。</p>	<p>本日の感想として、ここまで身近にとっても希望が詰まった場所があったのだと感動しました。アジアでも有数の生物の聖域である和白干潟は渡り鳥などの生物が生きていく場所としてとても重要であるが、福岡市長が全力を入れて守ろうとしていないことの驚きました。しかし、行政と連携し、月に一回の情報交換をして、イベントを開催し、市民の参加をよびかける事で段々と解決に向かってるのではないかと感じました。この調子でラムサール条約が締結されると良いなと思いました。私はバイトや部活で忙しく、このようなイベントに参加するのは難しいが、ゴミ拾いなどの私生活でできることを徹底し、この活動に貢献しようと感じました。</p>
<p>5 今回は和白干潟を守る会代表の山本さんから和白干潟の自然と環境保全活動を題して話があった。最初に和白干潟に関する概要と自己紹介があった。次に和白干潟の四季によって変化する様子を動物や植物図鑑の写真を用いて紹介された。その後クイズがあった。絵はがきのプレゼントもあった。そして和白海域と和白干潟に関して説明があった。ここでは和白干潟が日本海側で最大規模の大きさということが話された。また、どんなことを行っているのかといった活動内容について紹介された。次に配布された資料を用いてどのように行政にはたらきかけているのか説明があった。市長に和白干潟を理解してもらいたいという思いが語られていた。ここでは実際に市長に送った要望書と回答文を読んだ。最後に配布資料の最後にあるビリーブを説明を受け、歌った。</p>	<p>今回の講義を通して様々なことを学んだ。まず、和白干潟が「にほんの里100選」に登録されていることを知った。このように私が住んでいる身近なところに誇れる場所があることは良いことだと感じた。また、和白干潟の自然を守って行くべきだと感じた。以前よりも清掃活動に参加してみたいと思った。次に、自分の思っていることを相手に伝えるということの大切さである。特に印象に残ったことは絵はがきや切り絵などでも人に問いかけることができるということである。私にはこのような発想は全くなかった。また、行政や市長に対して要望書を用いて声を上げているところから和白干潟を本当に守りたいという山本さんや和白干潟を守る会の人々の思いが伝わった。このように自分から発信できる人や自分から声を上げることができる人になりたいと思った。今回の講義を通して和白干潟について関心が高まった。また、環境保全の大切さを考え直すことができた。</p>

<p>6 本日の授業では和白干潟を守る会の山本様に公演をして頂きました。和白干潟の自然と環境保全活動についてのお話があり、まず和白干潟の生き物について季節ごとの説明がありました。つぎに和白干潟の特徴、自然観察会、クリーン作戦、まつり、広報活動などのお話がありました。そしてラムサール条約登録を目指しての取り組みのお話もありました。</p>	<p>私は授業を通して、和白干潟を守りたい気持ちが非常に伝わってきました。和白干潟にいる生き物たちについて詳しく教えて頂き、長く見守ってきているのだと実感しました。また、市長へのラムサール条約登録の要望書にも登録することによって様々なメリットがあることを書いていました。行政側も理由があって登録に乗り気ではないかもしれないけれど、もう少し市民に寄り添ってもいいのではないかと感じました。</p>
<p>7 本日の授業の内容としては、和白干潟を守る会代表の山本廣子さんにお越しいただき和白干潟に関するお話をしていただきました。まず、和白干潟の式の様子を動物と植物の写真で紹介していただき、和白海域と和白干潟について教えていただきました。次に、和白干潟を守る会の活動内容について教えていただきました。次に、配布資料において行政への働きかけの様子を教えていただき、和白干潟がテレビに取り上げられた動画を視聴した。次に、福岡市長へ送った要望書と福岡市長からの回答文書を読み上げ、再度、福岡市長へ送った要望書と福岡市長の回答文書を読み上げた。そして、くすだひろこさんのきりえ集の紹介をしていただき、歌を全員で歌った。さらに、合間にクイズをしていただきました。</p>	<p>本日の授業の感想としては、まず、土地の開発によって植物が減少していることが印象に残った。土地の開発は利便性などを考えると良いことではあるが、土地の開発を行ううえで、植物や動物などに影響を及ぼさないようにするか影響を最小限にする取り組みが必要であると感じた。次に、福岡市長との要望書と回答文書でのやり取りが印象に残った。福岡市長の回答文書に明確な回答が見られないことには非常に驚いた。また、再度送った要望書に対する回答文書においても将来的と曖昧な回答であることにも驚いた。このことから、要望書と回答文書でのやり取りだけでなく、福岡市長と直接対面で要望する場を設けるように取り組む必要もあるのではないかと感じた。やはり、文字だけでは熱意と相手の考えていることまでを全て理解することができないと考えるため、会って話すことは必要であると感じた。そして、自分から発信できる人になるよう努めていきたいと感じた。</p>
<p>8 今回は、和白干潟を守る会の代表、山本寛子さんを御招きして講義を受けた。まず初めに、四季折々の和白干潟に生息する動植物や、渡り鳥などの水鳥の紹介とクイズを受けた。そのあと、和白干潟の概要について場所の特徴や湧水、干潟になった経緯、埋め立てに向いているとされる訳などを聞いた。次に、和白干潟をまもる会の一年を通して行っている活動の詳しい内容の説明をうけた。最後にNHKによるDVD映像を視聴し、和白干潟が優れていることを学んだ。</p>	<p>私は、長崎県諫早市出身ということもあり、干潟には小さいころから多く関わってきた。しかし、動植物の話などを聞くにつれて、一見同じような場所であっても、淡水と塩水の両方を兼ね備えているなどの、その地域の優れた特徴があることを学ぶことが出来た。また、NHKのDVDのなかで取り上げられていた、湧水があ02の割合が10%も高い特徴を生かすことが出来れば新たなエネルギー開発にも活用できるのではないかと感じた。</p>

<p>9 和白干潟は博多湾の南東部にあり全国でも珍しく2箇所しかない自然海岸の残る干潟である。砂質干潟で日本海側では最大規模であるという。自生する植物や東アジアからの渡り鳥からは四季折々の姿が見られるという。その多くにはハマ・ウラといった言葉が名前に入る特徴がある。海底湧水が豊富にあったが、住宅地の埋め立て問題やコンクリート化によって減ってきている。そんな和白干潟を保全するため和白干潟を守る会がある。主に「自然観察会」と「クリーン作戦」、水質・砂質・生物の「調査」、広報活動を行っているという。現在は福岡県には1箇所もないラムサール条約の登録を目標に活動している。</p>	<p>感想としては、和白干潟は生物多様性が育まれる、守り残していかない場所であると思いました。清掃イベントや観察等の様々な取り組みを聞いて勉強になりました。お話内でのゴミの仕分けや分析、渡り鳥の数を数える作業は実際に目で見て調査しなければならない作業であり、とても根気のいる作業だと感じました。コロナによって少なくなった取り組みの参加者をまた増やしていくことが干潟の保全に繋がっていくと思います。条約の件の回答に関しての意見としては、1人1花運動など意欲的に取り組んでいるように感じていた市長が誠意の籠った返答をしていないことにとっても驚きました。思いが伝わり、少しでも早い対応を受けることが出来たらと思います。私自身も詳しく知らなかったため、今回お聞きした話を伝えていきたいです。</p>
<p>10 家庭の事情により欠席をした。配布資料を見たり、以前授業で和白干潟についてのお話があったことを思い出したりして学習を行なった。「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は、九州産業大学の近くにある和白干潟の特徴や和白干潟のゴミ問題について、それを解決して自然を守っていくための環境保全活動について、行政との連携についての内容であった。環境保全活動を行なっている団体を和白干潟を守る会といい、山本廣子氏が1988年に作り、今でも続けられている。</p>	<p>本日の授業を受けての感想としては、自分の生まれ育った地域、思い出がある場所を大切にしたい気持ちがあり、それが全面埋め立てる計画があることを知って議会に反対する内容を提出し、守った行動力がすごいと思った。自分の地域を守ること、またそれを同じ状態、今以上にいい状態で未来に残すことはすごく困難なことであるが山本さんは諦めず、新しい活動も積極的に行われていて、和白干潟にとってヒーローのような存在だと思った。干潟にプラスチックゴミが溜まってしまうと環境にも近くにいる動物たちにも被害を与えてしまうため、絶対にポイ捨てをしないこと、落ちているゴミを見つけたら拾うこと、リサイクルできるものは再利用することなど日頃から意識できることに積極的に取り組んでいきたい。</p>

11	<p>和白干潟とは九産大近くにあり、渡り鳥の渡来地として重要なところである。世界中で干潟や内湾は埋め立てや干拓され、和白干潟のように自然海岸が残るのは全国で2ヶ所ほどしかない。貴重な和白干潟は埋立されそうになったが、山本さんたちの和白干潟保全の請願書が採択された。主な保全活動は自然観察会、クリーン作戦、調査の3つであり、他にも和白干潟近くの集水域をグループを作り保全活動もしている。また行政の働きかけとしては、2007年「博多湾・和白干潟保全のための提案」、2010年「博多湾・和白干潟保全のための提案」、2012年「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録についての要望書」、2013年「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める要望書」、2015年1月「和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書」を福岡市長に提出したりと、継続して動いている。</p>	<p>今回の講義を受けて、率直に和白干潟に対する興味が湧いた。というのも私は鹿児島県の出水高校に通っていたのだが、その高校がある出水市は世界のツルが集まる場所としてラムサール条約に認められていて、市はツルを守り続けている。そんな地元があるので今回の話は他人事には聞こえず、是非和白干潟をラムサール条約に登録されてほしいと思った。湿地や干潟は土地開発により少なくなり、生き物の居場所なども破壊されていってしまうので、和白干潟を守る会のみなさんなど、日本の貴重な自然資源を守るための活動はとても意義があると思うし、自分も何らかの形で参加してみたいと思った。</p>
12	<p>今回は和白干潟を守る会の代表、山本さんに講義をしていただいた。和白干潟とは、博多湾の東奥部に位置する干潟で、和白海域は約300ha、和白干潟はその中の約80haの砂質干潟です。世界中で内湾や干潟は埋立や干拓をされてきた。和白干潟のような自然海岸に残る干潟は、全国で二か所しかないと言われる。山本さんは和白干潟のそばで生まれ、潮干狩りや泳ぐなどして育った。そんななか、和白干潟を全面埋め立てる計画があると知り、1987年に「和白干潟保全」の請願書を福岡市議会に提出し、それが採択され、和白干潟は保全されることとなった。その翌年に「和白干潟を守る会」が結成され保全活動が始まった。その後、2003年に和白海域は「国指定和白干潟鳥獣保護区」に設定され、2004年にラムサール条約登録の候補地にも選ばれています。和白干潟を守る会の保全活動として、「自然観察会」「クリーン作戦」「調査」が柱となっている。</p>	<p>私は幼稚園児の頃から和白の隣の街である三苦に住んでいる。そのため、潮干狩りで採れたアサリをもらったり、潮干狩りに実際に行ったりなど、小さい頃から和白干潟とは関わりがあった。そのような和白干潟が埋め立てられそうになったことや、国指定和白鳥獣保護区に指定され、ラムサール条約の候補地になっていることなど、初めて知ることが多くあった。生まれた時から身近にあり、関わりがあるということは山本さんと似た境遇であると思うので、私も機会があれば環境保全活動に参加してみたいと感じた。</p>

13	<p>「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は、和白干潟は博多湾の奥にあり、150万都市の中に残された干潟になっているそうだ。砂っぽい場所や、泥っぽい場所、磯干潟、アシ原と塩生植物。広くはないけれどいろんな環境が揃っていて干潟観察や環境学習に最適の場所である。</p>	<p>本日の授業を受けての感想としては、和白干潟の保全を次世代へ続けさせて行く必要があると考えた。そのためには私たち学生が干潟についてしっかりと理解し発信する能力を身につける必要があると考えた。</p>
14	<p>和白干潟を守る会の環境保全活動について、和白干潟の自然について、行政への働きかけ、連携について、プラスチックゴミについて学んだ。山本さんは生まれ育った地で身近にあった和白干潟の環境を保全するために、行政などと連携して様々な取り組みを行っている。どの課題解決の分野においても、市民の活動だけでは限界があるため、行政と上手く連携することが重要であることも理解することができた。</p>	<p>今回の講義では、和白干潟の自然や環境保全活動について学びました。講義の中で1番印象に残ったのは、環境保全活動において地域住民や関係機関との連携が不可欠だということです。行政のみならず地域の人々の理解や協力を得ることで、情報の共有や啓発活動などを行うことが可能になり、より地域の資源や文化に配慮しながら持続可能な干潟の管理を目指すことができると感じました。</p>
15	<p>今回は和白干潟を守る会の方にお越しいただき、和白干潟の生態や会としての活動の報告などがありました。最後には和白干潟を守る会として行政にどう働きかけてるかや、実際に和白干潟のラムサール条約に向けた県へ提出した検討書などを紹介していただきました。全体的なまとめとしては、和白干潟では、主軸の活動目的は「ラムサール条約」の登録に向けた活動をしながら、地域の子供たちを招いて和白干潟の生態や、重要性の説明をし、馴染んでもらおうと活動しているということでした。</p>	<p>和白干潟は1988年からある会で今年で35年ほどになる会であると紹介があり、すごく年季がある会なのだなと感じました。また、活動内容にバードウォッチングや自然観察など、和白干潟の生態の豊富性がうかがえる内容があり、紹介された生物たちもとてもかわいく、多くの種類がいました。この工場建設による環境破壊などが社会問題である現代で、ここまできれいな自然を保っている和白干潟は大切に扱っていかないといけないなと感じました。</p>

<p>16 今回の講義は和白干潟を守る会の代表でいらっしゃる山本廣子様を招いての和白干潟の環境保全に向けた取り組みをお話しいただいた。和白干潟は自然海岸のある干潟として「にほんの里 100 選」に選ばれており、和白干潟を守る会は、環境保全活動に35年取り組んでいる。1994年の人工島の建設をきっかけに深刻な被害を受けたことをきっかけに和白干潟の保全に向けラムサール条約登録地にするための行政への働きかけを行っており住民主体の活動が活発に行われている。</p>	<p>今回の講義では和白干潟の保全に関しお話を伺った。和白干潟の保全は住民主体で行われており海岸清掃だけではなく要望書を提出するなど行政に実際の声を届ける取り組みも行われていた。市民の活動には限界があり根本的な解決には行政が持つ資源や権限が不可欠であると感じた。保全に向けた積極的な取り組みだけではなく規制や制限なども必要となると感じた。海岸清掃などを通して市民の環境保全への関心を高め更なる取り組みを行うと同時に行政へ住民の意識を届けることが重要だと感じた。</p>
<p>17 本日の講義では、山本廣子氏の特別講義「和白干潟や地球の環境を守る」という題名で進んだ。博多湾・和白干潟が東アジアの渡り鳥の渡来地として非常に重要であることが紹介された。和白干潟は自然海岸のある干潟として「にほんの里100選」にも選ばれているようだ。また、行政への働きかけとして、和白干潟を「ラムサール条約登録地」にするための行政への働きかけ、和白干潟を守る会は、和白干潟の環境を守るために様々な活動を行っていますが、市民の保全活動だけでは自然を守っていくことはできない。</p>	<p>今回の講義を受けて、山本廣子氏の特別講義「和白干潟や地球の環境を守る」ということは本当に大事なことなのだと感じた。また、和白干潟を守る会は約35年にわたって環境保護活動に取り組んでおり、湿地を保全するためにラムサール条約への登録を目指している。会は和白干潟の自然環境を未来に残すことを願っているそうなのですがとても凄いことだと感じた。</p>

<p>18 今回の講義では、和白干潟を守る会の代表の山本さんを招き、和白干潟の自然や行政との関係について講義していただいた。和白干潟にはハママツナやハマニンニクの塩生植物だけではなく、ミヤコドリやオナガガモなどの生物も越冬し、自然と生物が共存している場所だということ学んだ。また行政の関わりについては、当初、和白干潟を埋め立てる計画が進んでいた際に和白干潟保全に関する請願書を市議会に提出することや和白干潟をラムサール条約登録地に認定してもらうことで、福岡市を環境保全に積極的に取り組む都市として、他市にアピールする狙いがあることを知った。しかし、福岡市は和白干潟をラムサール条約登録地にすることには、消極的な姿勢を示しており、未だに決定には至っていないことを学んだ。そしてプラゴミを減らすには、私達一人ひとりがゴミに対する意識を変化することやアクションを起こすことが重要だと知った。</p>	<p>今回の講義で、和白干潟を守る会の方から大変興味深い話を聞くことができた。私は実際に和白干潟でクリーン作戦に参加しているが、他の活動については具体的にどのようなことを行っているのか分からなかったため、今回を機に知ることができて良かった。また福岡市が中々、和白干潟をラムサール条約登録地に指定しないことに関し、率直な感想としては「将来的な課題」などの言葉を使用し曖昧にしている点に対し、少し違和感を覚えた。せっかく和白干潟を守る会が他の自治体では、あまり取り組みがなされていないことを率先して行っているの、その点はもっと評価されてもいいのではないかと感じた。私は行政の立場としてはもっと前向きな姿勢を示す必要があったのではないかと考える。</p>
<p>19 本日は和白干潟を守る会の方をお招きして、「和白干潟や地球の自然を守る」という題名で講義がなされた。まず和白干潟の概要と自然環境について説明がなされ、季節ごとに生息している動物や植物について説明がなされた。次に和白干潟を守る会が行っている主な取り組みについて説明がなされ、環境保全活動として主に「自然観察会」と「クリーン作戦」と「調査」の3つを行っているという説明がなされた。最後に和白干潟と行政の関わりについて説明がなされ、和白干潟を守る会は和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするために行政への働きかけを行っていることについて説明がなされた。</p>	<p>本日の授業内容で最も印象に残っている点は、和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書に対する福岡市の回答についてである。和白干潟を守る会のラムサール条約登録に要望書に対して否定的な態度を示していた理由として、将来的には和白干潟を埋め立てたいという思いがあり、ラムサール条約に登録されてしまうと埋め立てることが不可能となるため、都市計画の面から福岡市としてはラムサール条約に登録したくないと考えているのではないかと聞き納得はしたが、このような決定に行政側の意識を強く反映してしまうのは良くないと考えた。</p>

20	<p>本日は和皿干潟を守る会の方がいらっしゃって講義をしてくださった。和白干潟を守る会の環境保全活動は、「自然観察会」と「クリーン作戦」と「調査」が柱になっている。そのほかにも、年一回秋に行われる500人規模の「和白干潟まつり」をこれまで35回開催した。行政との連携の点では、福岡市区港湾空港局と意見交換をして共同で保全活動を行なっている。また、イベント「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」「アオサのお掃除大作戦」「バードウォッチング」も定着して市民参加も増えた。</p>	<p>私は和白干潟を守る会のクリーン作戦に参加したことがあります。その会では、高齢者が多く、若者や学生の参加は単体などでは見られなかったと思います。しかし、今回の講義でイベント「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」「アオサのお掃除大作戦」「バードウォッチング」が開かれていることを知ったので、このような活動が若者の目に留まれば良いと考えました。地域の人々が和白干潟を守ろうとする気持ちが一致団結していて印象に残りました。</p>
21	<p>「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。和白干潟は日本に二か所しかない自然海岸に残る干潟であり、東アジアの渡り鳥の渡来地として重要な場所である。酸素を多く含む海水が湧きクロツラヘラサギやハクセンシオマネキといった絶滅危惧種も生息している自然豊かな干潟であるが博多湾の開発により環境が悪化してきている。そんな和白干潟を守るため山本さんは「和白干潟を守る会」を作った。会では自然観察会や清掃活動、環境調査、祭りなどを行っており和白干潟の保護を訴えかけている。また、会は干潟のラムサール条約登録を目指しているが行政からの反応は芳しくない。</p>	<p>本日の授業を受けての感想としては、自分はこの授業を受けるまで自然豊かな干潟が福岡に存在していることすら知らなかったため守る会のような活動はとても大事なものだと思った。自然保護を訴えかける市民の声に対して行政が曖昧な態度を取っているのはとても残念だった。切り絵がとても上手で特に影の光と影の使い方が素晴らしく作品としても自然保護の主張を訴えかける手段としてもこのような表現のしかたがあるのかと感銘を受けた。</p>
22	<p>和白干潟を守る会の山本さんの特別講義であった。和白干潟は、福岡市の博多湾東奥部にある約80haの砂質干潟である。和白干潟のように自然海岸に残る干潟は全国に2箇所しかない。そんな干潟を和白干潟を守る会が環境保全活動を35年間もしている。和白干潟を守る会は、和白干潟の環境を守るための活動とは別に、行政へラムサール条約登録地となるように働きかけている。和白干潟の現状は、大量のプラスチックゴミが流れ着いてしまっている。</p>	<p>今回の講義では、和白干潟を守る会の山本さんの講義であった。和白干潟は、九州産業大学の近くにある自然海岸の干潟で全国に2箇所しかないことに驚いたと共に、誇りに感じた。そんな干潟を、山本さんたちが環境保全活動として活動しており、ラムサール条約登録地になるように行政へ長年働きかけている。現在、大量のプラスチックゴミが流れ着いてしまっているとの事だったが、私達もポイ捨てしないなどの少しでも力になれることをしたいと思う。</p>

23

本日の講義では、和白干潟を守る会代表の山本廣子様にお越しいただき、和白干潟の保全について講義をなされた。和白干潟を守る会では環境保全活動として、自然観察会の実施やクリーン作戦と水質・砂質調査、生物調査が柱となりパンフレットやリーフレットの発行を行っている。秋には年に1回ラムサール条約登録を目指し、自然観察を主体としたイベント「和白干潟まつり」を開催しており、これまで35回開催されている。また和白干潟をラムサール条約登録地にすべく行政への働きかけも行っており、具体例として「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める請願書」や「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書などを福岡市長に提出している。他にも行政と連携して活動を行っており、福岡市港湾空港局と和白干潟に係る環境保護団体で形成された「和白干潟保全のつどい」で月1回の情報交換のほかイベントの開催も行っている。

本日の講義内で、ラムサール条約登録について福岡市長に要望書を提出したものの、福岡市からの返答にはそれについて言及されておらず、2回目に対する返答には将来的にと曖昧な返答がなされ返答も期限ギリギリであり行政がすべき対応ではないと話されていた。私自身の見解として、一概に福岡市の対応が悪いものであると言い難いと感じた。要望書の中に佐賀県と鹿児島県の事例が提示され、ラムサール条約に登録することで環境が保全され観光客の増加に繋がると書かれていたが、大都市福岡において観光客の増加についてはそこまで影響しないのではと考える。環境政策についても確かに干潟の保全は重要である。しかし環境政策としては、他にも二酸化炭素排出量の減少や脱炭素社会の実現といった福岡市が取り組んでいる政策は多くある。和白干潟の保全が環境政策の起爆剤となる可能性は否めないが、福岡市にも考えがあつてのことのため、一概に悪いと言いきれない。

24

「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は、和白干潟を守る会の環境保全活動は、「自然観察会」と「クリーン作戦」と調査が柱になっている。また「和白干潟まつり」も35回まで開催された。和白干潟を守る会はラムサール条約締約会議で和白干潟が選ばれるように署名活動をして、請願書を出している。行政にもラムサール条約の登録地となるように働きかけており、「博多湾・和白干潟保全のための提案」や「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書」などを福岡市に提出したが、曖昧な回答が返ってきた。

本日の授業を受けての感想としては、私は和白干潟に行ったことはがなく、どのような場所なのかも知らなかったため、お話を聞くことができ多くの生物が生息しており、絶滅の危機に瀕しているような種類の生物もいることを知ることでよかったと思う。また福岡市に提出された「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書への返答として曖昧な回答をした福岡市をあまり大きな問題として捉えられていないのではないかと感じた。福岡市を動かすためにも、より活動を盛んにしていくことで福岡市も無視できなくなるのではないかと考えた。

25

今回は、和白干潟を守る会代表の山本さんによる和白干潟や地球の自然を守るというテーマで和白干潟の現状と自然保護の大切さについて学んだ。和白干潟は自然海岸のある干潟としてほんの里100選に選ばれており、東アジアの渡り鳥の渡来地として重要な場所となっている。自然海岸の残る干潟は日本全国で2か所しかなく、2003年には国指定和白干潟鳥獣保護地区に、2004年にはラムサール条約登録候補地に選出されている。行政への働きかけには、福岡市に2005年に塩浜地区護岸工事に関する要望書、2006年に人工島野鳥公園基本構想の人工干潟造成計画撤回を求める要望書などを提出した結果事業者とともに留意点について守る会と協議することが通例となった。ただ、行政はいまだに条約登録に向けて前向きに動く様子が見られない。

今回は、和白干潟を守る会代表の山本さんによる和白干潟や地球の自然を守るというテーマで和白干潟の現状と自然保護の大切さについて学んだ。和白干潟が自然海岸のある干潟としてほんの里100選に選ばれ、東アジアの渡り鳥の渡来地として重要な場所となり、自然海岸の残る干潟は日本全国で2か所しかなく、2003年には国指定和白干潟鳥獣保護地区に、2004年にはラムサール条約登録候補地に選出されていることを初めて知った。ほぼ毎月守る会の活動にあるクリーン作戦に参加しているが、未だに家庭ごみが多く感じるので私たちの身の回りから変えていく必要があると感じた。また、これだけ魅力があるのに市長の返答が前向きな姿勢を感じなかったことを受けて、周辺住民だけでなく多くの人に知ってもらう必要があると感じた。私自身も和白干潟の魅力伝えていこうと思う。

26

本日の講義では、和白干潟や地球環境を守るということについて学んだ。和白干潟は、日本全国で2か所しかない自然海岸に残る干潟の1つであり、塩生植物が豊富で、渡り鳥の中継地や越冬地として重要な湿地である。しかし、和白干潟を全面埋め立てる計画が出たため、「和白干潟を守る会」を作り、保全活動が行われている。主な活動は、「自然観察会」「クリーン作戦」「調査」である。しかし、人工島が建設されたことで大きなダメージを受けた。そのため、行政には「和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書」を提出したり、た毎年の和白干潟まつりでは「和白干潟のラムサール宣言」を出したりしている。また、プラスチックゴミが流れついていることも問題となっている。

和白干潟だけでなく日本全国で河川や海岸等の護岸工事で自然環境が破壊されている。また、国際的なもんだとなっている海洋ゴミに関しては、自然環境の破壊だけでなく、海の生物にも悪影響を与えている。私の地元は、カブトガニが生息しており、後世に残すために、高校生の頃は毎年学校の行事で海岸清掃を行っていた。私は、絶滅危惧種知っていたため、大事にしないといけないなと思っていた。しかし、和白干潟に関しては、国際的に大事な場所だと知らなかったため、正直関心がなかった。ただ、和白干潟を残すことは、自然環境や生物を守っていくために必要なことと知り、自分事として考え、清掃活動などに参加していこうと思う。

27

今回の授業では、和白干潟を守る会代表の山本さんに来ていただいてお話を聞いた。まず、和白干潟で見られる水鳥や底生動物や植物について画像を見ながら色々な生態系について学んだ。その後、和白干潟と和白海域の関係などを聞いた。和白干潟での活動内容は全部大きく分けて7つのことが行われており、身近な地域で行われている活動について知ることが出来た。最後にビデオを見て、和白干潟では海水よりも酸素が10%も多い水が湧き出ており、そのため和白干潟の水質は綺麗ななのであると知った。

今回の授業では、自分が現在住んでいる近くの地域での活動内容について学んだので、とても身近に感じる事が出来ながらお話を聞くことが出来た。和白干潟には、まだ1度しか訪れたことが無かったが今回のお話を聞くことで、活動内容などを知ることが出来たので是非また訪れてみたいと感じた。お話を聞く中で、和白干潟が無くなりそうだったが、それを市民運動によって止めた事実を知り衝撃を受けた。この事例を元に、まずは行動を起こすことが大切であるのだと学ぶことが出来る良い機会となった。また、和白干潟の水質が綺麗な理由が分からなかったビデオで研究者により解明されて知ることが出来て良かった。

28

本日の授業は、九産大の和白干潟と言って東アジアの渡り鳥の渡来地重要な場所を守られている「和白干潟を守る会」代表の山本廣子さんのお話を聞き、環境保全活動や和白干潟の自然について学んでいった。山本さんは、自分の大好きな、和白干潟が全面埋め立てられる計画があるのを知り、そこから、1987年に「和白干潟保全」の請願書を福岡市議会に提出し、奇跡的に和白干潟を守ることができた。そこから山本さんは、1988年に「和白干潟を守る会」を作り、和白の保全活動を初めていき、現在和白海域は、「国指定和白干潟鳥獣保護区」に認定されラムサール条約登録の候補地にも選ばれており、山本さんの行動力でここまでのものに和白干潟がなったことを学んだ。

本日の授業では、「和白干潟を守る会」の山本廣子さんのお話を聞いて和白干潟の自然や山本さんが行ったことについて学んでいった。私が、特に印象に残ったことは、山本さんの行動力のおかげで今、和白干潟が残っており、「国指定和白干潟鳥獣保護区」にも認定されていることからこの和白干潟を大切に思う気持ちにすごい学べることがたくさんあったと感じた。私も、自分の大切にしたいものをこれからも守っていきたいと感じた。

29

「和白干潟や地球の自然を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義が開催された。その主な内容として、和白干潟の紹介や和白干潟を守る会の環境活動の詳細、行政への働きかけについてであった。博多湾・和白干潟は東アジアの渡り鳥の渡来地として重要なところである。和白干潟は、にほんの里100選に選ばれている。和白干潟のように自然海岸の残る干潟は、日本全国で2か所しかないと言われている。酸素を多く含む海水が湧くため、和白干潟は生き物たちの生きやすい場所となっていた。しかし、人工島の存在で和白海域の水質悪化によりアオサの大量発生や底質のヘドロ化を招き、底生動物の減少や渡り鳥の減少が起きている。和白干潟を守る会の環境保全活動は取り組み35年になり、自然観察会、クリーン作戦、調査が柱になっている。実際に、和白干潟をラムサール条約登録地にするために行政に働きかけている現状を知った。

本日の授業を受けて、世界中で内湾や干潟は埋め立てや干拓をされてきていて、和白干潟のように自然海岸の残る干潟が日本全国で2か所しかないことに驚いた。東アジアの渡り鳥の中継地や越冬地として国際的にも重要な湿地となっていることや酸素を多く含む海水が湧くため、生きものたちにとって生きやすい場所になっていると理解することができた。しかし、人工島が作られて水質悪化となり、アサオの大量発生や底質のヘドロ化など様々な問題が生じていて残念に思った。そこで、和白干潟の全面埋め立ての計画に対して、保全するべきだと立ち上がって保全されるようにした山本廣子氏の行動力は素晴らしいと思った。それをきっかけに和白干潟を守る会を作り、環境保全活動を行っていることに関心を持たれた。実際に、和白干潟の環境保全活動に参加してみたいと思った。環境保全活動は、市民だけでなく行政や企業と協働することが大切だと改めて気づけた。

30

本日の授業内容をまとめる。本日は、和白干潟を守る会の代表の山本さんの特別授業であった。その内容とは、和白干潟で見ることのできる底生動物であったり、水鳥や植物についての説明があったり、和白干潟の自然や実際に和白干潟を守る会が行っている環境保全活動についての説明もあった。そのほかにも、和白干潟をラムサール条約の登録地にするために行政にさまざまな働きかけをしていることなどについて説明があった。あとは、実際に福岡市長に送った要望書も記載されていた。

本日の授業の感想を述べる。本日は和白干潟を守る会の代表の山本さんのお話を聞くことができ、とても有意義な時間であった。また、今回の授業を聞いて、和白干潟にはさまざまな生き物が生息していて、その中でも絶滅するかもしれない生き物もいるので絶滅してほしくないと思う。海岸にゴミなどを捨てないといったことは私にもできることなので、そういうことをせずもっと環境に配慮して生活していきたいと考えている。一回でもいいので和白干潟に行きたいと思う。

<p>31</p> <p>本日の授業内容は、和白干潟や地球の自然を守るである。和白干潟は人口 160 万都市福岡市の中である。</p> <p>講師の方は 1988 年に「和白干潟を守る会」を作り、和白干潟の保全活動を始めた。2003 年に和白海域は「国指定和白干潟鳥獣保護区」に設定され、2004年にはラムサール条約登録の候補地にも選ばれている。</p> <p>1994 年に博多湾東部、和白干潟沖に 401ha の人工島建設が始まったことにより、和白干潟は大きなダメージを受けた。そのため、福岡市の方針によって、開発や改変などでこれ以上和白干潟を傷めることがないように、水鳥の保護と湿地の保全を定めた国際条約「ラムサール条約」の登録地となるよう求めてきた。</p> <p>様々な取り組みの結果、福岡市による和白干潟周辺の工事 に関しては、市が事業者とともに事前に説明に来て留意点などについて守る会と協議の場を設けることが通例になった。</p>	<p>この授業の感想としては、和白干潟を含む湿地の保全は非常に重要であり、国際的な協力が必要であり、湿地は生物多様性の保護や水資源管理に大きく関与しており、私たちの生活にも深く関わっていることが分かった。</p> <p>短期的な経済的利益にとらわれず、長期的な視野で湿地の価値を認識し、適切な保護策や持続可能な利用方法を見つけることが重要だと思った。また、個人の意識、行動や企業の取り組みも大切なので、このような取り組みが進めば、和白干潟を含む湿地の生態系が回復し、将来の世代に美しい自然環境を残すことができると考えた。</p>
<p>32</p> <p>今回は和白干潟や地球の自然を守ることについての授業だった。和白干潟は九州産業大学の近くにあり、全国に2か所しかない自然海岸の残る唯一の干潟だ。干潟を守る会の環境保全活動は自然観察とクリーン作戦、調査が柱となっている。活動を続けていく中で2018年に日本自然保護協会により日本自然保護大賞を受賞した。</p>	<p>今回の授業を受けて、身近に全国に2か所しかないと言われている自然海岸があるすごい干潟があることに驚いた。また、その干潟を守るために活動をしている和白干潟を守る会が活動を続けていき、日本自然保護大賞を受賞していることを聞き、自分もボランティアがあれば参加したいと思った。</p>

<p>33 本日は体調不良により休ませていただきましたので講義資料での内容と感想になります。和白干潟は福岡市の中にあり、世界中では干潟や内湾は埋め立てられていて自然海岸が残る干潟は、全国で2カ所しかないと言われていいる。この和白干潟が埋め立てられる計画を知り、和白干潟保全の請願書を福岡市議会に提出してこれが奇跡的に採択され和白干潟は保全されることになったが、その後干潟を塞ぐように作られた人口島のせいで環境は悪くなっていった。それから和白干潟を守る会を設立し保全活動を始めた。そこで福岡市に対しこれ以上干潟を傷めないよう要望をし、この取り組みの結果市が事業者とともに事前に説明に来て留意点などについて守る会と協議の場を設けることが通例になった。</p>	<p>恐らくこの人口島はアイランドシティのことで、埋め立て地ということもあって反対運動が行われていたというのは前々から知っていたのですが、まさかこれが出来たことで和白干潟の環境が悪くなっていったというのは初めて聞きました。そして、当時の行政の担当者はこのアイランドシティを作ることで和白干潟の環境が悪くなるのが理解できなかったのか？それとも理解していて経済効果に目がくらみ建設したのか？恐らく後者で間違いなくそれなら今環境が悪化したことについて行政は認め謝罪をし守る会が行っている保全活動の取組に連携だけではなくむしろ協力すべきではないのだろうか？他の埋立地でも恐らく同じようなことが起こっているはずなので行政は真摯に住民の意見を聞くべきだと考える。</p>
<p>34 和白干潟は人口160万人都市である福岡市の中にあり、和白干潟のように自然海岸が残る干潟は日本全国で2つしかないと言われている。沿岸にはハマツナやハマニンニクなどの塩生植物が豊富である。和白干潟を守る会の環境保全活動は、「自然観察会」と「クリーン作戦」と「調査」が柱になっている。2013年には和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により、第5回「プロジェクト未来遺産」に登録され、2018年には日本自然保護協会より、日本自然保護大賞を受賞した。</p>	<p>今日話を聞いて、自分はボランティアに参加したことは数回しかないが、このような自然保護活動に参加したいと感じた。実際にこのような会に参加できなくても、自分で地球を守るための活動はできると感じたのでぜひしようと思った。自分の家の近くには室見川が流れており、清掃活動に参加した時に、思っていたより多くのゴミが落ちていて、とても大変だった。しかし、清掃した後の綺麗な川を見ると清掃活動を行って良かったと思えたのでこのような活動をぜひ大事にしたいと感じた。</p>
<p>35 九州産業大学の近くには和白干潟があり、博多湾・和白干潟は東アジアの渡り鳥の渡来地として重要な環境である。自然海岸のある干潟として「にほんの里100選」に選ばれており、和白干潟を守る会は、環境保全活動に取り組み35年。湿地を保全するラムサール条約登録を目指し、和白干潟の自然を未来に残したいと願っている。和白干潟は人口160万都市福岡市の中にある。博多湾の東奥部にある和白海域は約300ha、和白干潟はその中の約80haの砂質干潟である。</p>	<p>今回は和白干潟についてと、和白干潟についての行政の働き、プラスチックごみの問題について学びました。プラスチックごみの問題は個人的に興味のあるテーマで、水質汚染で海洋生物に直接悪影響を与えることや、海洋生物が体内に入れた汚染水を通して私たちにも影響が与えられることが心配だと思いました。</p>

36

「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は、自然海岸のある干潟として「日本の里 100選」に選ばれている。和白干潟を守る会として環境保護活動と「ラムサール条約登録地」にするために行政への働きかけを行なっていることを学んだ。和白干潟にも大量のプラスチックゴミが流れ着いているようだ。ラムサール条約登録地とは水鳥の生息地として国際的に重要な湿地およびそこに生息・生育する動植物の保全を促し、湿地の賢明な利用を進めることを目的とした条約であった。

本日の授業を受けての感想としては、今まで4年間通ってきた九州産業大学の近くに「日本の里 100選」に選ばれている和白干潟というものがあることを初めて知った。プラスチックゴミが大量に流れ着いているのを知り、私自身も少しでもプラスチックゴミを減らすためにマイボトルを持ち歩いたりゴミを見つけたら拾う、コンビニエンスストアなどで買い物袋をもらわないでいようにエコバックを持ち歩いたりしようと思った。これからは和白干潟を守っていくために少しでもできることがないか考えたいと思った。

37

和白干潟を守る会は35年にわたり、和白干潟の自然保護に尽力しています。市の方針に反し、和白干潟を守るべく、1994年の人工島建設以来「ラムサール条約」登録を求めて行政に働きかけています。2007年以降、複数回の提案や要望書を提出し、署名活動も行いました。環境省へも要望書を提出し、公共事業に対する意見も述べています。また、定期的な連絡会やイベントを通じて市民と行政との連携を深め、環境保全に積極的に取り組んでいます。プラスチックゴミ問題にも取り組み、ビーチクリーンアップなどでデータ収集を行っています。和白干潟まつりや啓発冊子を通じて広報も行い、市民参加を促進しています。しかし、行政の回答が十分でないため、引き続き自然環境の保全とプラスチックゴミ対策を呼びかけています。

和白干潟を守る会の環境保全活動には感銘を受けます。35年にわたり、市民参加を中心に自然環境の保全に奔走している姿勢は立派です。特に「ラムサール条約」登録への継続的な働きかけや、プラスチックゴミ問題への取り組みは素晴らしいと思います。市民と行政との協力を強化し、署名活動やイベントを通じて積極的に情報を発信している姿勢は、地域社会への深い関与を示しています。しかし、行政からの十分な回答が得られていない現状が課題となっているようで、その対応には一層の努力が求められるとおもいます。活動の幅広さや国際的な視野を持ちながら、地元の自然を守り抜く覚悟が感じられ、これからも市民と共に未来への遺産を築いていく姿勢は素晴らしいと思います。

38

今回の講義で、和白干潟を守る会の方から「和白干潟や地球の自然を守る」というタイトルでお話を聞いた。和白干潟は自然豊かで春夏秋冬によってやってくる生物が違っていたり、植物が違っていたりすることを知った。また和白干潟は日本海側最大規模の干潟であり、東アジアの渡り鳥のルートの交差点としての役割を果たしていることを学んだ。取り組み内容としては私が参加しているクリーン作戦の他に自然観察会や講習会、生物調査（野鳥）やICC、広報活動など様々なジャンルにまで及ぶことを知った。和白干潟を守る会は1988年に設立し、環境保全活動を行い続けて35年もの歴史がある団体だということを学んだ。ただ環境保全活動を実施するのではなく、積極的に市や国に向けて嘆願書を提出し、行政と連携し環境保全活動を行っていることを理解した。

今回の講義で、和白干潟についてより一層理解が深まったと感じている。私はクリーン作戦を行う際には、常にゴミをできる限り多く採ろうと決め臨んでいるが、今回を機に和白干潟の自然や生物の豊かさを知ることができたので、今後参加する際にはゴミを採取するのと並行に生物観察してみるのも新たな楽しみ方なのではないかなと考えた。またプラスチックゴミを減らす取り組みとして私はエコバックを持参することや家庭内でのゴミの分別を徹底しているが、今回講義を実際に聞いてみて、改めて重要なことだと認識し、親戚や友人に広めゴミを減らしていくことを勧めていこうと強く感じた。今後も可能な限りクリーン作戦に参加すると共にゴミ減量の啓発活動を私個人としても行っていきたいと考えた。

39

本日は和白干潟を守る会の方をお招きして、「和白干潟や地球の自然を守る」という題名で講義がなされた。まず和白干潟の概要と自然環境について説明がなされ、季節ごとに生息している動物や植物について説明がなされた。次に和白干潟を守る会が行っている主な取り組みについて説明がなされ、環境保全活動として主に「自然観察会」と「クリーン作戦」と「調査」の3つを行っているという説明がなされた。最後に和白干潟と行政の関わりについて説明がなされ、和白干潟を守る会は和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするために行政への働きかけを行っていることについて説明がなされた。

本日の授業内容で最も印象に残っている点は、和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書に対する福岡市の回答についてである。まず最初に和白干潟を守る会がラムサール条約登録を求めた時の回答は、ラムサール条約に触れることすらなく、2回目の要望時にはラムサール条約に触れはしたものの「将来的な課題」というような答え方をしているのを見て、福岡市側のかなり否定的な態度に驚いた。地方自治は地方の住民の意思に基づき行うべきだと私は考えているので、今回のような福岡市の態度は不適切だと考えた。

<p>40 本日の授業は和白干潟を守る会の方が授業をしてくださった。和白干潟を守る会は和白干潟の環境を守るために様々な活動を行なっているが、市民の保全活動だけでは自然を守っていくことはできないため、「ラムサール条約登録地」にするための活動を行なっている。2017年3月に「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める請願書」を福岡市議会に提出したが、「継続審査」となった。毎年の和白干潟まつりでは「和白干潟のラムサール宣言」を出して、環境大臣や福岡県知事、福岡市長に送っている。</p>	<p>和白干潟を守る会の活動はクリーン運動だけだったと思っていたので、今回の講義で様々な活動、特に、ラムサール条約登録地にするための活動を行なっていることが衝撃でした。2015年の「和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書」に9558名もの署名を集められたことが印象的でした。今回の講義を通して、クリーン作戦以外の活動や、大量のプラスチックゴミが流れ着いているということから人間の手で行うゴミの分別・清掃活動の大切さがわかりました。</p>
<p>41 「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。和白干潟は日本に二か所しかない自然海岸に残る干潟であり、東アジアの渡り鳥の渡来地として重要な場所である。酸素を多く含む海水が湧きクロツラヘラサギやハクセンシオマネキといった絶滅危惧種も生息している自然豊かな干潟であるが博多湾の開発により環境が悪化してきている。そんな和白干潟を守るため山本さんは「和白干潟を守る会」を作った。会では自然観察会や清掃活動、環境調査、祭りなどを行っており和白干潟の保護を訴えかけている。また、会は干潟のラムサール条約登録を目指しているが行政からの反応は芳しくない。</p>	<p>本日の授業を受けての感想としては、自分はこの授業を受けるまで自然豊かな干潟が福岡に存在していることすら知らなかったため守る会のような活動はとても大事なものだと思った。自然保護を訴えかける市民の声に対して行政が曖昧な態度を取っているのはとても残念だった。切り絵がとても上手で特に影の光と影の使い方が素晴らしく作品としても自然保護の主張を訴えかける手段としてもこのような表現のしかたがあるのかと感銘を受けた。</p>

42

本日の講義では、和白干潟を守る会代表山本廣子様にお越しいただき、和白干潟・地球の環境保全について講義をなされた。和白干潟の概要について和白干潟は福岡市にあり和白海域は約300ha、和白干潟はその中の約80haの砂質干潟である。和白干潟は東アジアの渡り鳥の渡来地となっており、にほんの里100選にも選出されている。和白干潟にはハマツナやハマナデシコなどの多くの植物が見られるほか、絶滅が心配されているクロツラヘラサギやツクシガモが越冬しており、多くの動植物にとって生活しやすい環境となっている。この要因として和白干潟では水が湧いており、この水の酸素の含有量が海水よりも10%多いためである。和白干潟を守る会の中心となる活動は自然観察会、クリーン作戦、水質・砂質調査の3つである。2012年7月からは和白干潟の集水域から唐原流域の5グループと山・川・海の流域会議が作られ、環境保全活動が進められている。

本講義で印象に残った点は、和白干潟の環境悪化についてである。和白干潟は約80haの広さを誇り、東アジアの渡り鳥の渡来地であり「にほんの里100選」に選出されるほど貴重な自然が残っている。しかし博多湾の開発や都市化による生活排水の流入が増加したことで和白干潟の環境は悪化したことで、和白干潟に生息していた生物は生きる場を失い、渡り鳥は減少し干潟はヘドロ化する程になった。この話を聞き自然環境の悪化が生態系に大きな影響を与えてしまうことを改めて実感した。また講義内で環境保全のために私たちにできることについても話された。使い捨てのものを利用せずゴミを減らすためマイバッグ・マイボトルを携帯することやプラスチックゴミを持ち帰り捨てるなど多くある。他にも自然環境に配慮した観光を行う等が挙げられる。自分たちの生活の利便性をあげるだけでなく、少しでも自然環境を守ることができるよう我々も協力していくべきだ。

43

「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は、和白干潟を守る会の環境保全活動は、「自然観察会」と「クリーン作戦」と調査が柱になっている。また「和白干潟まつり」も35回まで開催された。和白干潟を守る会はラムサール条約締結会議で和白干潟が選ばれるように署名活動をして、請願書を出している。行政にもラムサール条約の登録地となるように働きかけており、「博多湾・和白干潟保全のための提案」や「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録を求める要望書」などを福岡市に提出したが、曖昧な回答が返ってきた。

本日の授業を受けての感想としては、私は和白干潟に行ったことはがなく、どのような場所なのかも知らなかったため、お話を聞くことができ多くの生物が生息しており、絶滅の危機に瀕しているような種類の生物もいることを知ることができてよかったと思う。また福岡市に提出された「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書への返答として曖昧な回答をした福岡市をあまり大きな問題として捉えられていないのではないかと感じた。福岡市を動かすためにも、より活動を盛んにしていくことで福岡市も無視できなくなるのではないかと考えた。

44

今回は、和白干潟を守る会代表の山本さんによる和白干潟や地球の自然を守るというテーマで和白干潟の現状と自然保護の大切さについて学んだ。和白干潟を守る会の環境保全活動としては、主に自然観察会、クリーン作戦、調査が柱となっている。ほかにも年1回開催する和白干潟まつり、集水域の立花山から和白干潟に注ぐ唐原川流域の5グループと山・川・海の流域会議を作り環境保全活動を行っている。行政との連携においては福岡市港湾局と和白干潟に係る環境保護団体でつくる和白干潟保全のついで月1回情報交換イベントを行っている。また、毎年秋に国際ビーチクリーンアップに参加しごみのデータ調査を行っている。和白干潟には海底湧水があり、海水より10%酸素濃度が高いためきれいな海水であるが年々都市開発の影響で減少している。干潟を守るために市長などに要望書を送っているが対応が曖昧となっている。

今回は、和白干潟を守る会代表の山本さんによる和白干潟や地球の自然を守るというテーマで和白干潟の現状と自然保護の大切さについて学んだ。和白干潟自体がそもそもとても貴重なもので、日本海側では最大規模の干潟であること、絶滅危惧種の鳥などが往来する重要な土地であることを初めて知り、クリーン作戦に参加した際に普通に見ていたものが保護対象の鳥たちであることに衝撃を受け、これから和白干潟を守っていく必要があると改めて実感した。また、行政との連携において福岡市港湾局と月1回情報交換してるのに、市長に出した要望書の返答が曖昧なのはなぜなのだろうと疑問に感じた。市長自身が干潟に赴いて現状を知り、干潟を守ることの重要性を知ってもらうこと、そして市民全体に和白干潟の大切さを知ることが必要であると考えた。

45

今回の授業では、和白干潟を守る会代表の山本さんに来ていただいてお話を聞いた。まず、和白干潟で見られる水鳥や底生動物や植物について画像を見ながら色々な生態系について学んだ。その後、和白干潟と和白海域の関係などを聞いた。和白干潟での活動内容は全部大きく分けて7つのことが行われており、身近な地域で行われている活動について知ることが出来た。最後にビデオを見て、和白干潟では海水よりも酸素が10%も多い水が湧き出ており、そのため和白干潟の水質は綺麗ななのであると知った。

今回の授業では、自分が現在住んでいる近くの地域での活動内容について学んだので、とても身近に感じる事が出来ながらお話を聞くことが出来た。和白干潟には、まだ1度しか訪れたことが無かったが今回のお話を聞くことで、活動内容などを知ることが出来たので是非また訪れてみたいと感じた。お話を聞く中で、和白干潟が無くなりそうだったが、それを市民運動によって止めた事実を知り衝撃を受けた。この事例を元に、まずは行動を起こすことが大切であるのだと学ぶことが出来る良い機会となった。また、和白干潟の水質が綺麗な理由が分からなかったビデオで研究者により説明されて知ることが出来て良かった。

<p>46 「和白干潟や地球の自然を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義が開催された。和白干潟のように自然海岸の残る干潟は、日本全国で2か所しかないと言われている。山本廣子氏は、和白干潟のすぐそばで生まれ、愛着がある中で和白干潟を全面埋め立てる計画があるのを知った際に、「和白干潟保全」の請願書を福岡市議会に提出し、奇跡的に採択されて和白干潟が保全されるきっかけを作ったのである。そこで和白干潟保全守る会を作ったのである。和白干潟を水鳥の保護と湿地の保全を定めた国際条約であるラムサール条約の登録地になるように福岡市に働きかけている。その結果として、福岡市による和白干潟周辺の工事に関しては、市が事業者とともに守る会と協議の場を設けるようになったのである。また、行政の環境に関する様々な意見募集などの情報収集と監視を徹底させ、施策にも反映させるようにしたのである。</p>	<p>本日の授業を受けて、山本廣子氏にとって愛着のある和白干潟を守っていきたいという強い気持ちが印象に残った。水鳥の保護と湿地の保全を定めた国際条約であるラムサール条約に和白干潟が早く登録されて欲しいと強く思った。また、和白干潟を守る会の環境保全活動について詳しく知ることができた。和白干潟は様々な魅力があって多くの人に愛されているのだと感じた。実際に、和白干潟を守る会は環境省や福岡市に要望書を提出するという多くの働きかけをしていて驚いた。その成果として、福岡市による和白干潟周辺の工事について市と事業者、守る会の3者の協議の場を設けることを通例にしている素晴らしいと思った。このように、協議の場を設けて話し合っただけで1つの政策に取り組んでいくことが重要だと学んだ。和白干潟だけに限らず、自然や環境を守る会が他にどのくらいあるのかを調べてみたいと思った。</p>
<p>47 本日の授業内容をまとめる。本日は、和白干潟を守る会の代表の山本さんに特別授業をしていただいた。和白干潟で見ることのできる植物、底生動物や水鳥といった様々な生き物がある。和白干潟を守る会の主な活動内容は、自然観察会、月に一回行われるクリーン作戦や水質や砂質の調査、生物調査のほかに広報活動や年一回に行われる和白干潟まつりというイベントなども行っている。2003年に和白海域は「国指定和白干潟鳥獣保護区」に設定され、2004年にはラムサール条約登録の候補地にも選ばれた。和白干潟をラムサール条約登録地にするために行政に対してさまざまな働きかけをしている。</p>	<p>本日の授業の感想を述べる。私は和白干潟という名前は聞いたことがあったが、どのような場所であって、どんな生き物が生息しているのかは全く知らなかった。今回特別授業で知ることができてとてもよかった。和白干潟は、自然海岸のある干潟として、日本の里100選に選ばれていることを知り、すごい場所なんだなと思った。市長に対しての要望書に関しては、曖昧にするのではなく、しっかりと回答してほしいなと思った。そうすることで相手も納得すると思うし、マイナスな印象しか残さないと思う。</p>

48

本日は和白干潟の環境保全について学んだ。博多湾・和白干潟は東アジアの渡り鳥の渡来地として重要なところであり、自然海岸のある干潟としてほんの里100選に選ばれている。東アジアの渡り鳥の中継地や越冬地として、国際的にも重要な湿地であり、絶滅が心配されるクロツラヘラサギやソクシガモが越冬しており、九州では珍しいミヤコドリの越冬地にもなっている。1987年に和白干潟保全の請願書が福岡市議会に提出され、和白干潟は保全されることとなった1998年には和白干潟を守る会が設立され、和白干潟は全面埋め立てを免れたが、和白干潟をふさぐような位置に作られた401haの人工島の存在で、和白海域は海水の流れが悪くなり水質悪化や底質のヘドロ化を招き、底生動物の減少や渡り鳥の減少が起こっている。2003年に和白海域は国指定和白干潟鳥獣保護区に設定され、2004年にはラムサール条約登録の候補地にも選ばれている。

本日の和白干潟保全の講義を受けて、1988年に和白干潟を守る会を設立してから現在までの間、行政に対して博多湾・和白干潟保全のための提案や博多湾・和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める請願書など和白干潟保全のために活動しているにも関わらずラムサール条約登録に至らないのは悲しいことではありますが、それでも自然観察会やクリーン作戦、調査を繰り返し和白干潟の保全を続けてきたことに環境問題への真剣な姿勢を感じることができました。人工島建設による水質悪化などは個人の努力で変えることは難しいことですが、一人一人にできることとして湾内のゴミを減らすのは意識の改善によりできることであり、それらの推進も行っている和白干潟を守る会に興味を持ちました。和白干潟の話はよく耳にしますが実際に見たことは無かったため、この機会に一度自分の目で干潟の現状を見に行ってみたいと思います。

49

和白干潟を守る会は、和白干潟の環境を守るために様々な活動を行っている。1994年に人工島建設が始まったことにより、和白干潟は大きなダメージを受けた。福岡市の方針によって、開発や改変などでこれ以上和白干潟を傷めることがないように、水鳥の保護と湿地の保全を定めた国際条約「ラムサール条約」の登録地となるよう求めてきた。条約登録には地元自治体の申請手続きが必要で、福岡市の行政、議会の環境保護への意識が高まるよう、市民として意見や要望を出していこうと活動方針に定めている。市民の保全活動だけでは自然を守っていくことはできない。だからこそ行政等との連携が必要不可欠なのである。

和白干潟を守る会の方々がどのような思いで活動を行っているのかが、伝わってきた。私はゼミでの研究から、より企業や行政と連携すること、協働することが大事なのかを学んだつもりだったが、この講義でより大切さを理解することができた。また、海洋ごみの状況、和白干潟がどうなっていくべきなのかが分かったため、海岸清掃の活動にも参加しようと思った。

50

本日は、和白干潟の自然と環境保全活動を行っている、和白干潟を守る会代表の山本廣子様による特別講義が開催された。和白干潟は、東アジアの渡り鳥の中継地や越冬地として国際的にも重要な場所に位置している。また、自然海岸の残る干潟として日本全国2か所しかないという貴重な地域資源である。しかし、世界中で内湾や干潟の埋め立てや干拓が進められており和白干潟もその対象となっていた過去がある。そのような状況を踏まえた上で、和白干潟のすぐそばで生まれ育った山本様は1987年に「和白干潟保全」の請願書を福岡市議会に提出し、奇跡的に採択され現在も継続的に保全されている。そして、和白干潟を守る会の環境保全活動として「自然観察会」と「クリーン作戦」と「水質・砂質調査、生物調査」、広報活動などの保全活動を地域住民・行政と連携、協働して取り組んでいる。現在は、ラムサール条約登録を目指して行政に働きかけている。

山本様は、生まれ育った大切な「和白干潟」を自ら積極的に「和白干潟保全」の請願書を市議会に提出するという行動力に驚嘆した。また、地域住民が自らの手で地域課題を見つけ解決していくという地方自治の手法を本講義において聞いたことは非常に良い経験となった。そして、環境保全活動として取り組まれている「自然観察会」や「クリーン作戦」、「和白干潟まつり」などの活動が地元の人々との交流の場を提供できていることや未来を担う子どもたちに対して自然の大切さを理解してもらおう活動も行っているため、郷土愛の向上と地域コミュニティを推進させる社会教育の側面も持ち、持続可能なまちづくりを実現できていることに非常に感銘を受けた。さらに、和白干潟は海底湧水が多く出ており、酸素も多く含んでいるため生息する生き物にとって非常に良い環境であり、この現状は和白干潟を守る会の方々の日頃の努力の結晶だと感じたため非常に刺激を受けた。

51

和白干潟は、福岡市の中にある。和白海域は約300ha、和白干潟はその中の約80haの砂質干潟であり、自然海岸の残る干潟は、日本全国で2か所しかなく、塩生植物が豊富であったが、和白干潟を全面埋め立てる計画があり、1987年に「和白干潟保全」の請願書を福岡市議会に提出した所、採択されてまた、1988年に「和白干潟を守る会」を作り、和白干潟の保全活動が始まった。活動内容では、「自然観察会」と「クリーン作戦」と「調査」が柱になっている。そのほかに年1回秋の500人規模の「和白干潟まつり」また和白干潟の集水域である立花山から和白干潟に注ぐ唐原川流域の6グループと、2012年7月から「山・川・海の流域会議」を作り、この集水域の環境保全活動を行なっている。

感想では、「ラムサール条約登録地」にするための行政への働きかけ和白干潟を守る会は、和白干潟の環境を守るために様々な活動を行っていたが、保全活動だけでは自然を守っていくことはできないと知った。和白干潟を守るために、ラムサール条約の条約登録してもらうよう、地元自治体の申請手続きが必要であり、数々の条約登録についての要望書を福岡市の行政へ働きかけをしてることを学んだ。また環境省に対しても働きかけをしてることも知った。行政との連携では、福岡市港湾空港局と和白干潟に係る環境保護団体でつくる「和白干潟保全のつどい」で月1回、情報交換をし、イベント「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」「アオサのお掃除大作戦」「バードウォッチング」、市民参加も増えていることから行政への働きかけ、連携することでイベントなどでも市民参加も増えていることがわかった。

<p>52 本日の講義では、和白干潟について深く学びました。和白干潟は人口 160 万都市福岡市の中にあります。博多湾の東奥部にある和白海域は約 300ha、和白干潟はその中の約 80ha の砂質干潟です。世界中で内湾や干潟は埋め立てや干拓をされてきました。和白干潟のように自然海岸の残る干潟は、日本全国で 2 か所しかないと言われています。沿岸にはハママツナやハマニンクなどの塩生植物が豊富です。東アジアの渡り鳥の中継地や越冬地として、国際的にも重要な湿地です。絶滅が心配されるクロツラヘラサギやツクシガモが越冬しており、九州では珍しいミヤコドリの越冬地にもなっています。また沿岸が護岸や大きな道路などで埋め立てられていないことで、和白干潟には海底湧水が多く出ており、酸素を多く含む海水が湧くことで和白干潟は生きものたちをはぐくんでいます。</p>	<p>本日の講義を受けて、和白干潟でとても良い環境活動が行われていて、とても良いものだと感じました。和白干潟を守る会では、行政にも実際に呼びかけをおこなっていました。自分が育った地域を自分の力で綺麗にしようとする姿がとてもかっこよかったです。また、和白干潟で行われているのですが、世界にも繋がると感じました。一つ一つの地域が自分たちの地域だから綺麗にしようと思うと、おのずと全部が綺麗になると思います。この活動を世界に広めて、環境をより良くしていきたいと思います。</p>
<p>53 本日は、和白干潟について、学びました。和白干潟は、人口160万都市の福岡の中にあり、和白干潟は、自然海岸の残る干潟であり、これは、日本全国でも 2ヶ所しかないことがわかった。また、和白干潟を守る会の環境保全活動は、自然観察会とクリーン作戦と調査が柱になっていることがわかった。</p>	<p>本日の授業の感想は、和白干潟には、クロツラヘラサギやミヤコドリという鳥類がいたり、和白干潟の秋はハママツナの紅葉が見れたり、自然豊かなところなんだと思いました。私も自然を見たり感じたりすることが好きなので残していくべきなものだと思いました。</p>
<p>54 和白干潟や地球の自然を守ることに学んだ。まず和白干潟は自然海岸の岸に残る日本で二ヶ所しかない貴重な干潟である。和白干潟を守るため和白干潟を守る会をつくった。しかし、人口島の影響による水質悪化で和白干潟にも悪影響が出ている。主な環境活動は自然観察会、クリーン作戦や調査を柱としている。また、行政との連携では意見交換を行い保全活動を行なっている。</p>	<p>和白干潟と聞いて今までの私はアサリとか取れるのかなという考えでしたが今回の授業を受けて、和白干潟を守り通さなければと思いました。ただ、守るべき環境のはずなのに人工島を作り、一部であるとしても影響がでており環境を元に戻すことはできないかもしれませんが被害が大きくならないように環境活動を続けることが大切だと感じました。</p>

55	<p>「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は、まず春から冬にかけて和白干潟に来たり、生息する水鳥であったり、植物、低生動物を紹介していただいた。その次は和白干潟がどこに位置していて水鳥にとってどのような場所になっているのか説明していただき次は活動内容について詳しく説明していただいた。最後に歌をみんなで歌うといった内容であった。</p>	<p>今回和白干潟を守る会の代表である山本氏の特別講義を受けて和白干潟にどんな水鳥が来たり、どんな低生動物がいるのか、どんな植物が生えるのか詳しく知ることができ、和白干潟を守る会の方たちがどのような活動をしていてどのような思いで活動をしているのかヲタ知ることができ、力になれることがあれば力になりたいと思った。山本氏はずっと和白干潟を守るために、恩返しをするために活動していると仰っていてとても和白干潟をととても大事にしているんだなと感じた。</p>
56	<p>今回の講義では特別講師の山本さんをお招きして、和白干潟に関する行政の取り組みについて学びました。和白干潟海岸にも多くのプラスチックゴミが流れ着いているので環境保全するためにもゴミを増やさずに自然を守ることが大切だと感じました。</p>	<p>今回の講義では和白干潟に関する講義を行いました。身近にある場所でどういった生物が生息しているのかを学ぶことができました。日本でも珍しいとされら干潟なので地域の方々の協力で和白干潟の自然を守っていけるよう努めていきたいと思いました。</p>
57	<p>今回の授業の内容は、和白干潟や地球の自然を守るという内容で和白干潟にはたくさん多くの動物や、植物がいて、とても自然が多い地域です。博多湾、和白干潟は東アジアの渡り鳥の渡来地として重要な所です。自然海岸のある干潟として、日本の里100選に選ばれています。和白干潟を守る会は、環境保全活動に取り組み35年です。湿地を保全するラムサール条約登録を目指し、和白干潟の自然を未来に残したいと願っています。</p>	<p>今回の授業の感想は、今回、和白干潟を守る会での代表である、山本さんの話を聞きました。 和白干潟の話は何度か聞いたこともあったが、実際に和白干潟の方たちのお話を聞くことはとても貴重な時間となりました。また、和白干潟は自然が多く絶滅しそうな動物もいたりなど初めて知ることがたくさんありとても興味がわくお話を聞くことができたのでよかったです。</p>

58	<p>和白干潟は人口 160 万都市福岡市の中にあり、この和白干潟のように自然海岸の残る干潟は、日本全国で 2 か所しかないと言われている。そして絶滅が心配されるクロツラヘラサギやツクシガモが和白干潟で越冬しており、九州では珍しいミヤコドリの越冬地にもなっている。また沿岸が護岸や大きな道路などで埋め立てられていないことで、和白干潟には海底湧水が多く出ており、酸素を多く含む海水が湧くことで和白干潟は生きものたちをはぐくんでいる。</p>	<p>本日の授業を受けて、私は生まれてからずっと福岡にいますが、そんな福岡にこんな場所があったことを初めて知りました。全滅が危惧されているクロツラヘラサギやツクシガモが和白干潟で越冬していて、しかも日本全国に二か所しかない自然海岸の残る干潟で、非常に稀有な存在を知らなかったことを悔やむと同時に、そこにあるのだと気づいたからには一度訪れてみようとも思いました。</p>
59	<p>本日の授業では、和白干潟について学びました。和白干潟には多くの自然動物がいて、中には、渡り鳥の渡来地にもなっている重要な場所もありました。また和白干潟を守るために、自然観察会やクリーン作戦、生物調査、広報活動が行われていた。</p>	<p>本日の授業を受けて、和白干潟は、とても愛されているんだと感じました。講義して下さった方もとても熱心で、和白干潟の重要性をしれました。水が沸くとありましたがどの様にして沸いてくるのかも詳しく知りたいと感じました。</p>
60	<p>今回の授業内容は、和白干潟を守る会の山本さんの講義で、和白干潟は博多湾の東部和白海域にある砂質干潟であり、日本海域では最大規模の干潟で東アジアの渡り鳥ルートの交差点に当たる重要な場所である。和白干潟を守る会の活動内容は、自然観察会やクリーンさくせんと水質・砂質調査、生物調査、広報活動などが主な活動である。そして、和白干潟には海底湧水が湧いてきており、普通の海水よりも酸素を10%多く含んでいる。それから、和白干潟のゴミはペットボトルや食品容器、飲料缶が多い。</p>	<p>今回の授業を受けて、和白干潟が和白にあることは知っていたのですが、福岡市の都市開発によって、埋め立ての計画があったが、山本さんたちの反対によって、その計画が中止されたという過去があったことを知り、行動力の凄さに感心しました。それから、和白干潟を守る会から高島市長への「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書の高島市長からの回答は、ラムサール条約への明確な回答が2回ともなかったのが、現時点ではラムサール条約への登録を考えていないように感じました。</p>

<p>61 「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟を守る会代表の山本廣子氏による特別講義（補講）が開催された。その内容は最初に四季折々の様々な植物や、鳥、貝や、カニなど和白干潟の植生を見ていきました。和白干潟は日本海側では最大規模の干潟であり自然海岸のある干潟としてにほんの里100選に選ばれており、さまざまな植生が見られるいい干潟だと思いました。湧き水もかなり多く出て、綺麗で酸素も多い湧き水のため、魚や貝などが生息しやすい干潟ということも知りました。また、クリーン作戦など多くの取り組みをしており、実際に話を聞いてみて、昔からずっと活動を行っていて、毎年いい干潟になっていて素晴らしいと感じました。</p>	<p>本日の授業を受けての感想としては、まず、四季別の植生を見て、とても豊かでいい植生をしており、長年の活動が実を結んでいるように見え、素晴らしいなと思いました。和白干潟は湧き水も出て日本海側では最大規模の干潟であり、自然干潟が残る干潟は日本全国で2箇所しかないと言われており、守って行くべきだと思いました。ラムサール条約の登録を求める要望書の話に関する私の考えとして、山本さんの意見も大変分かります。素晴らしい干潟をラムサール条約に登録して守りたい気持ちは分かりますが、福岡県は開発を進めたいと市長が考えており、和白干潟のことを無下には出来ないから悩んだ末のあの対応なのではないかと感じました。私たちはどうすることも出来ないので和白干潟の活動がますます成功することを願っています。</p> <p>公演ありがとうございました。</p>
<p>62 和白干潟は、人口160万人都市福岡市の中にある。博多湾の東奥部にある和白海域は約300haであり、和白干潟はその中の約80haの砂質干潟である。日本海側で最大規模の干潟である。沿岸が大きな護岸や大きな道路などで埋め立てられていないことで、和白干潟には酸素を多く含む海底湧き水が多く出ていることから生き物たちが過ごしやすい環境にある。和白干潟には、多くの動植物が生息しており、春には、ハマニンクスの穂やセンダンの木が多く生えており、ソリハシギやオバンギなどの鳥も多く生息している。和白干潟を守る会では、幼稚園、学校などの生徒たちと自然観察会をしたり、クリーン作業、水質・砂質調査、生物調査、広報活動などを行っている。</p>	<p>和白干潟は、多くの動植物が生息していることが分かった。近くに住んでいるがなかなか行ったことが無く、一度足を運んでみようと思った。カニにいたっては、多くの種類が生息しており、興味深かった。私は花が好きなので、和白干潟に咲いている花たちの話を聞くとすごく行ってみたく感じた。和白干潟の夕日は、すごく綺麗で魅力的だったため、次回行ってみようと思う。和白干潟を守る会の代表の方は、埋め立てされる予定の干潟を必死に止め、現在の自然を守られていると考えるとすごく心に響くものがあった。そして、和白干潟を守る会では、観察会、クリーン作戦、調査などを行っていることが知れた。</p>

<p>63 本日の授業では、和白干潟を守る会代表の山本様から、和白干潟の自然や生物、活動内容を聞いた。和白干潟は、自然海岸のある干潟として「にほんの里100選」に選ばれている。和白干潟を守る会は、環境保全活動に取り組み35年になる。湿地を保全するラムサール条約登録を目指し、和白干潟の自然を未来に残したいと願っている。和白干潟にいる水鳥は、ダイシャクシギやオオソリハシシギなどがある。底生動物は、ハクセンシオマネキやホソウミニナなどがある。植物は、ハマニンニクやハマナデシコがある。活動内容としては、干潟の自然観察会・四季の和白干潟の自然さがし(年4回)・クリーン作戦と調査・干潟まつりの開催・定例会議の開催・干潟通信の発行・自然案内パンフレットや写真集などの発行・他団体との交流や連携を行っている。和白干潟をラムサール条約登録してもらえるように活動しつつ、市長にも想いを伝えている。</p>	<p>本日の授業では、九産大からも近い場所にある和白干潟のことについて詳しく知ることができました。和白という場所自体は知っていたのですが、和白干潟の状況や生物など、どのような活動を行っているのかを知らなかった。和白干潟を守る会の山本様からお話を聞いて、とても良かったです。ダイシャクシギやハマシギなど、ワタリドリや絶滅危惧種に認定されている貴重な水鳥が多くいるので、自然を守っていかなくてはならないのはもちろんのこと、それだけ綺麗に保っているのだと感じました。NHKの動画では、潮干狩りをしている様子や、湧き水の調査を行っていたので、ろ過された水が湧き出ているということは、そこにいる貝なども綺麗で美味しいと思うので、機会があれば和白干潟に行ってみたいなと思いました。最後に、私も和白干潟がラムサール条約登録されると、もっと環境が良くなり、観光でも賑わうのかなと感じました。</p>
<p>64 「和白干潟や地球の環境を守る」というタイトルで、和白干潟は、人口160万の福岡市の中にある。和白干潟は、80hsの砂質干潟である。和白干潟を守る会の環境保全活動が行われており、具体的には、「自然観察会」と「クリーン作戦」と「調査」が柱となっている。そのほか年に1回秋の500人規模の「和白干潟まつり」が35回まで開催されている。また和白干潟の集水域である立花山から和白干潟に注ぐ唐原川流域の5グループと、2012年7月から「山・川・海の流域会議」を作り、この集水域の環境保全活動をしている。九産大のグループも入っている。</p>	<p>今回の講義で聞いての感想は、和白干潟の環境が綺麗に保たれているのは、多くの人による活動によって守られているだと思った。また、近代では、プラスチックという化学物質によって人間だけでなく動物までにも大きな影響を及ぼしているなかでの、この活動はとても大切で必要なことであると思った。それも多くの人による活動があつてのものだと思ったため素晴らしい活動だと改めて思った。</p>

<p>65 九州産業大学の近くには和白干潟があり、博多湾・和白干潟は東アジアの渡り鳥の渡来地として重要な環境である。自然海岸のある干潟として「にほんの里 100 選」に選ばれており、和白干潟を守る会は、環境保全活動に取り組み 35 年。湿地を保全するラムサール条約登録を目指し、和白干潟の自然を未来に残したいと願っている。和白干潟は人口 160 万都市福岡市の中にある。博多湾の東奥部にある和白海域は約 300ha、和白干潟はその中の約 80ha の砂質干潟である。</p>	<p>今回は和白干潟についてと、和白干潟についての行政の働き、プラスチックごみの問題について学びました。プラスチックごみの問題は個人的に興味のあるテーマで、水質汚染で海洋生物に直接悪影響を与えることや、海洋生物が体内に入れた汚染水を通して私たちにも影響が与えられることが心配だと思いました。</p>
<p>66 本日は「和白干潟や地球の環境を守る」というテーマのもと、山本さんからの講義があった。和白干潟は日本全国で二か所しかない自然海岸の残る干潟であり、クロツラヘラサギやミヤコドリなどの生き物たちが育んでいる。和白干潟を守る会は、環境保全活動を行っており、自然を守り続けている。福岡市長にラムサール条約の登録をお願いする要望書を提出しているが、思ったような回答は得られていない。</p>	<p>今回の講義を受けて和白干潟という存在を初めて知りました。絶滅が心配される渡り鳥が越冬するなど自然豊かな場所で、和白干潟の保全を思う気持ちが良く分かりました。この保全活動が、市民の環境問題に対する意識を高め、イベントに参加するなど自然保護について考えるきっかけになっていると思います。ラムサール条約登録を求める要望書は、早く納得できるような回答が得られた良いなと思いました。個人的には、和白干潟を想う山本さんの団体を設立したりする行動力がすごく、羨ましく思いました。</p>